

2025年3月期 通期 決算ハイライト

ティアック株式会社
<https://www.teac.co.jp/jp/>
証券コード：6803

2025年5月14日

2025/03期 通期 業績概要

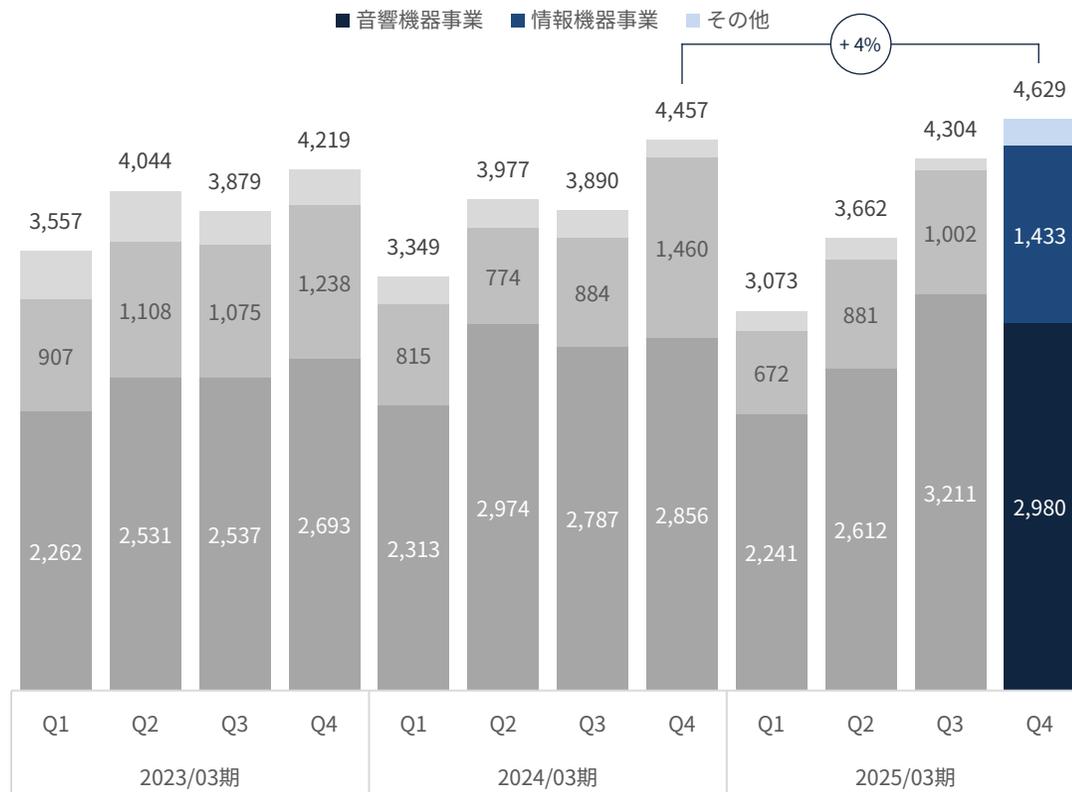
■ 2025/03期 通期は前期比減収増益。自己資本比率とフリーキャッシュフローはともに中期経営計画「B-7030計画」目標を達成

	2024/03期 通期	Q1	Q2	Q3	Q4	2025/03期 通期	前期比	(百万円)
売上収益	15,672	3,073	3,662	4,304	4,629	15,668	△ 4 (△ 0.0%)	• 音響機器事業・情報機器事業ともに増収も、その他事業の縮小により前期比横ばい
営業利益 (△損失)	445	△ 275	△ 7	198	425	340	△ 105 (△ 23.5%)	• 原価率の上昇により前期比減益
税引前利益 (△損失)	5	△ 398	37	18	402	59	+ 54 (+ 1031.8%)	• 為替差損の縮小により前期比増益 - 詳細は「 金融費用 (為替差損) の計上に関するお知らせ 」 (2025年5月14日発表) をご参照ください
当期利益 (△損失)	△ 53	△ 393	49	13	412	81	+ 134 (-)	• 黒字転換
資本合計	3,574					3,558	△ 16 (△ 0.5%)	• 前期比減
1株当たり親会社 所有者帰属持分	124.08円					123.51円	△ 0.56円 (△ 0.5%)	• 前期比減
自己資本比率	30.1%					32.9%	+ 2.8ppt	• 中期経営計画目標である「30%以上」を達成
フリー キャッシュフロー	10					1,064	+ 1,054	• 中期経営計画目標である「8億円以上」を達成

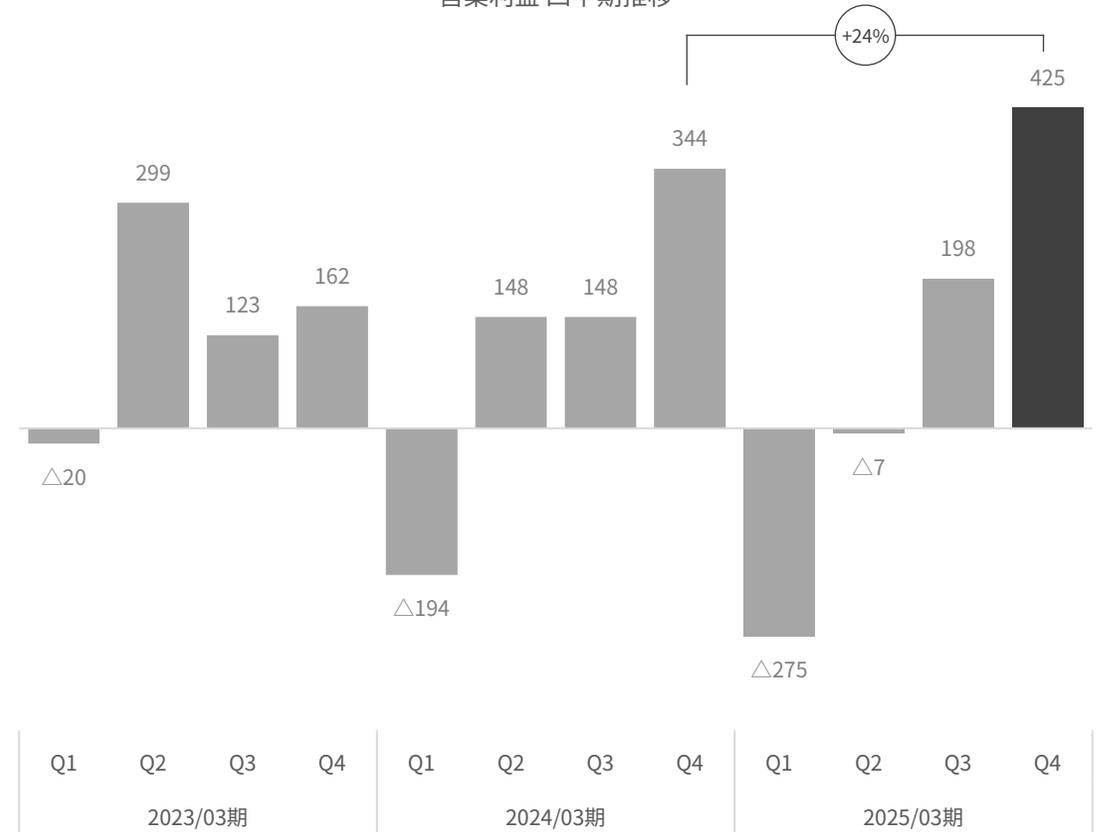
2025/03期 Q4単独 セグメント別業績

- Q4単独（1月-3月）売上収益は、音響機器事業の伸長により前年同期比4%の増収
- 営業利益は、売上総利益の増益に加え経費支出を抑制したことで前年同期比24%の増益

売上収益 四半期推移

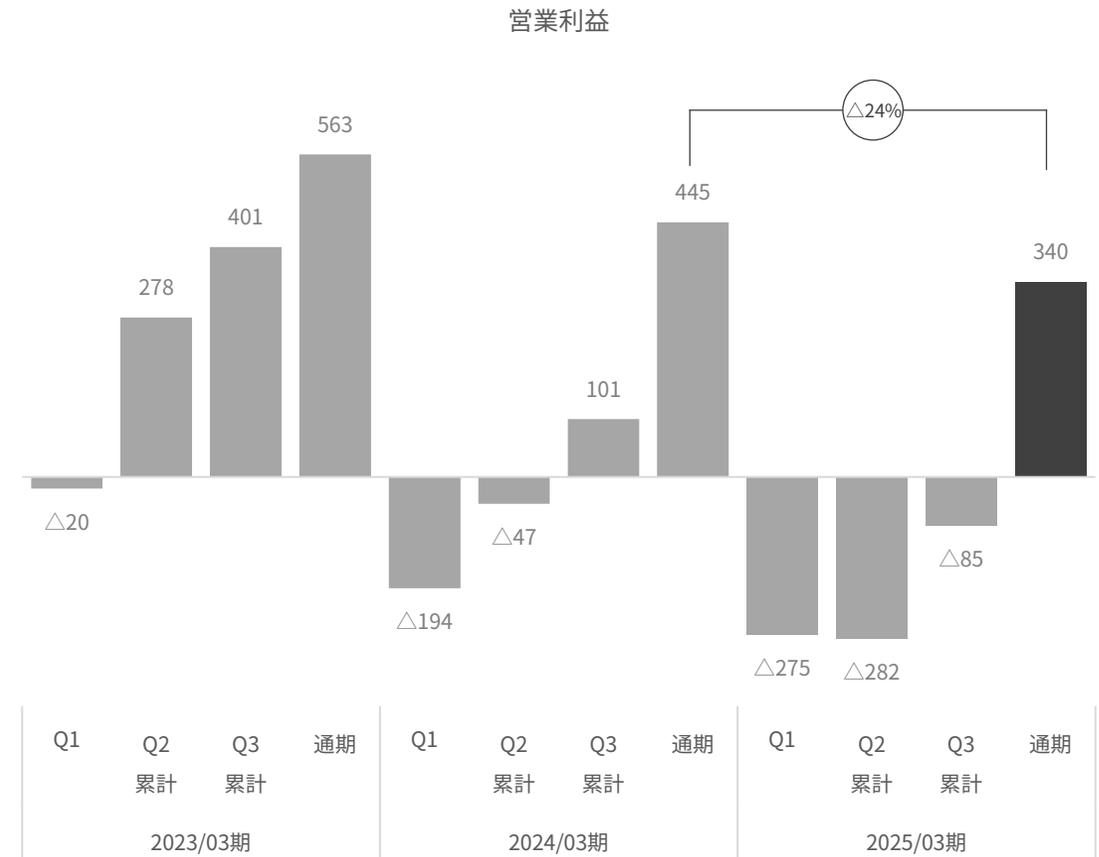
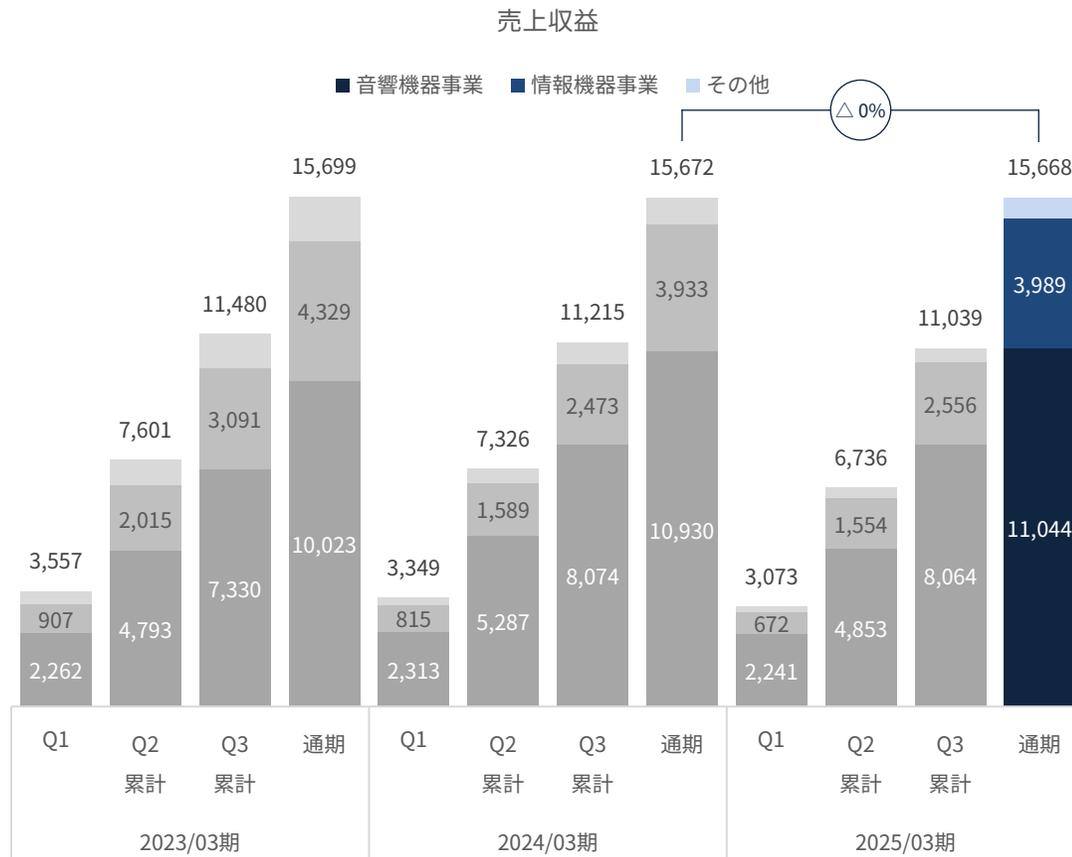


営業利益 四半期推移



2025/03期 通期 セグメント別業績

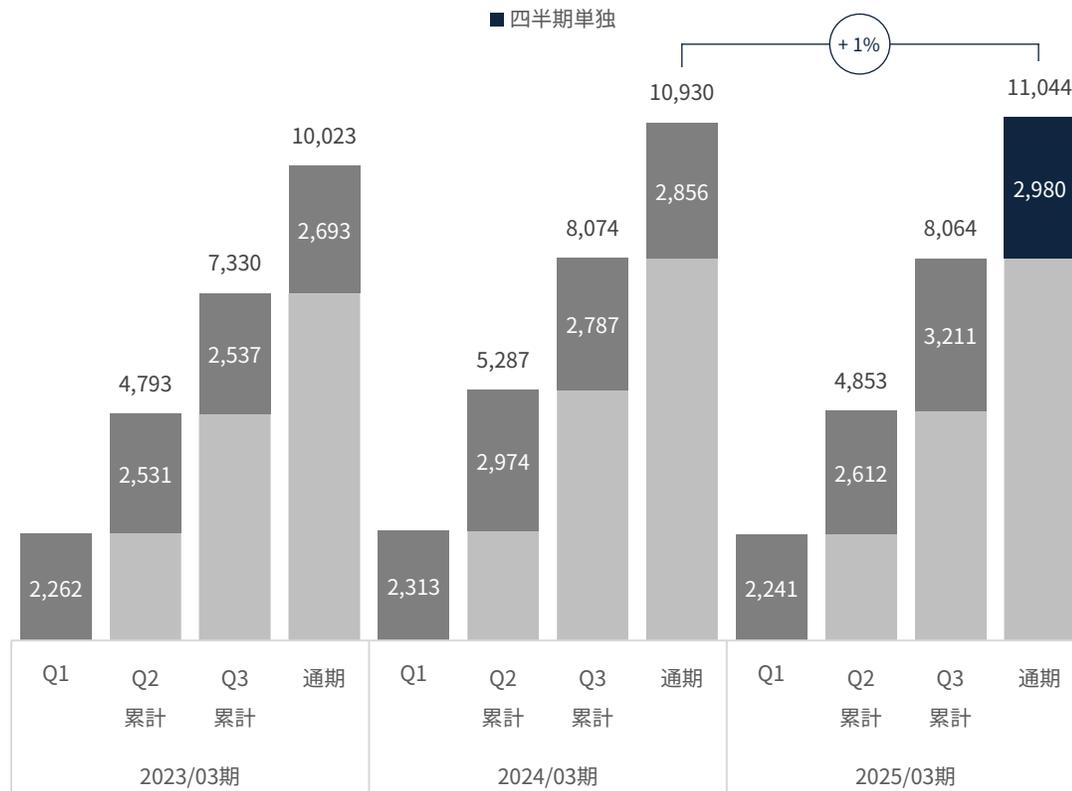
- 売上収益は、音響機器事業・情報機器事業ともに増収も、その他事業の縮小により前期比横ばい
- 営業利益は、原価率の上昇による売上総利益の減益に伴い前期比減益



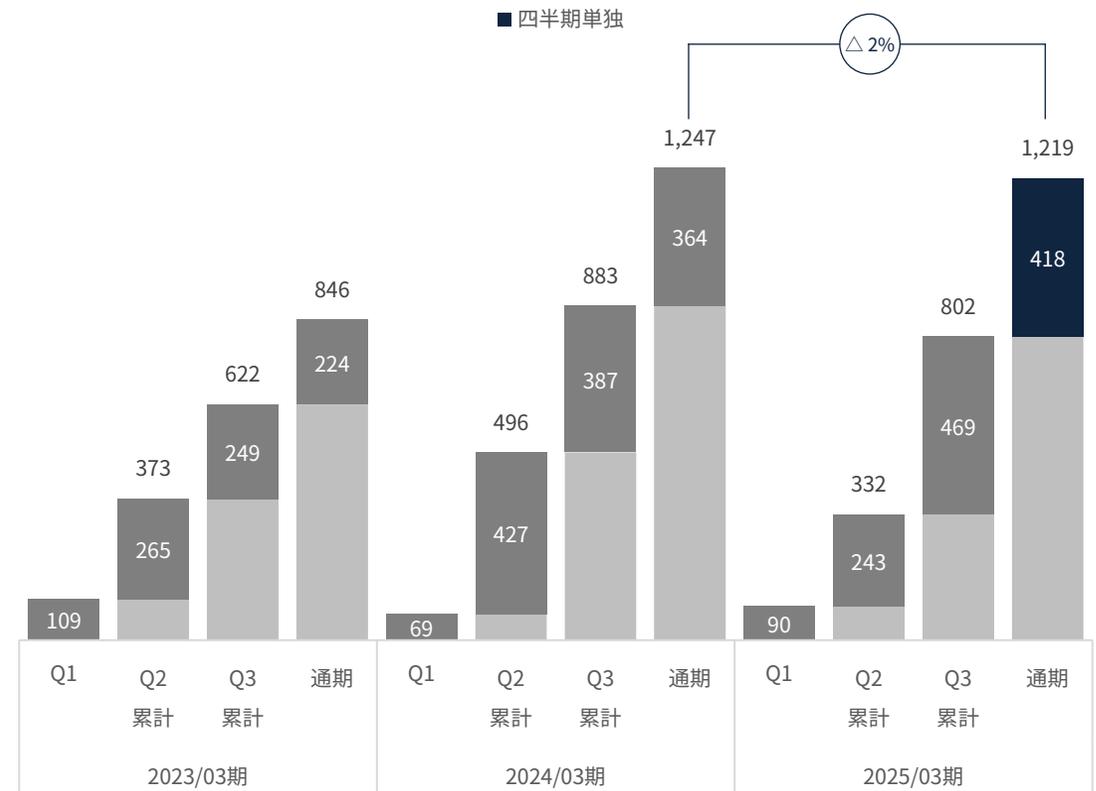
2025/03期 通期 音響機器事業業績

- プレミアムオーディオ（ESOTERIC、TEAC）は、海外専門誌の高評価を受けネットワークプレーヤーとアンプが大幅伸長、増収
- 業務用オーディオ（TASCAM BtoB）は、主力の録音再生機と各種周辺機器が好調維持し増収。他方音楽制作用オーディオ（TASCAM BtoC）において、新製品効果も加わった下半期の好調が上半期の低迷分を挽回するに至らず、減収

音響機器事業 売上収益



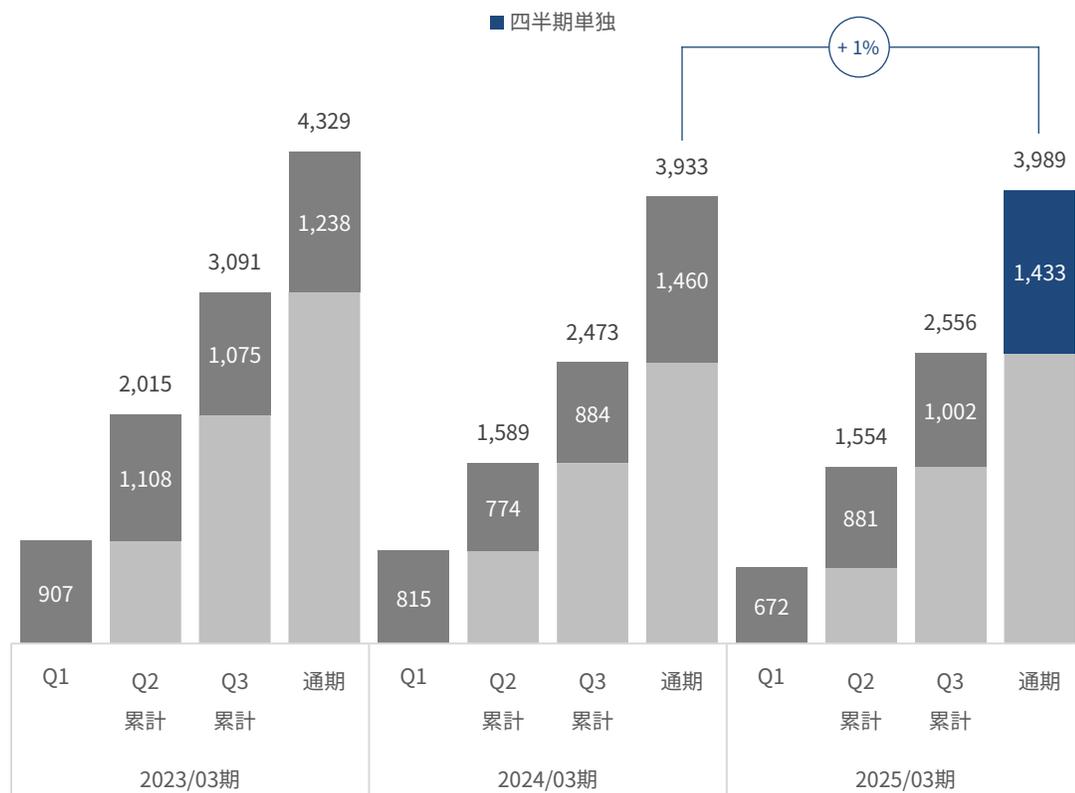
音響機器事業 セグメント利益



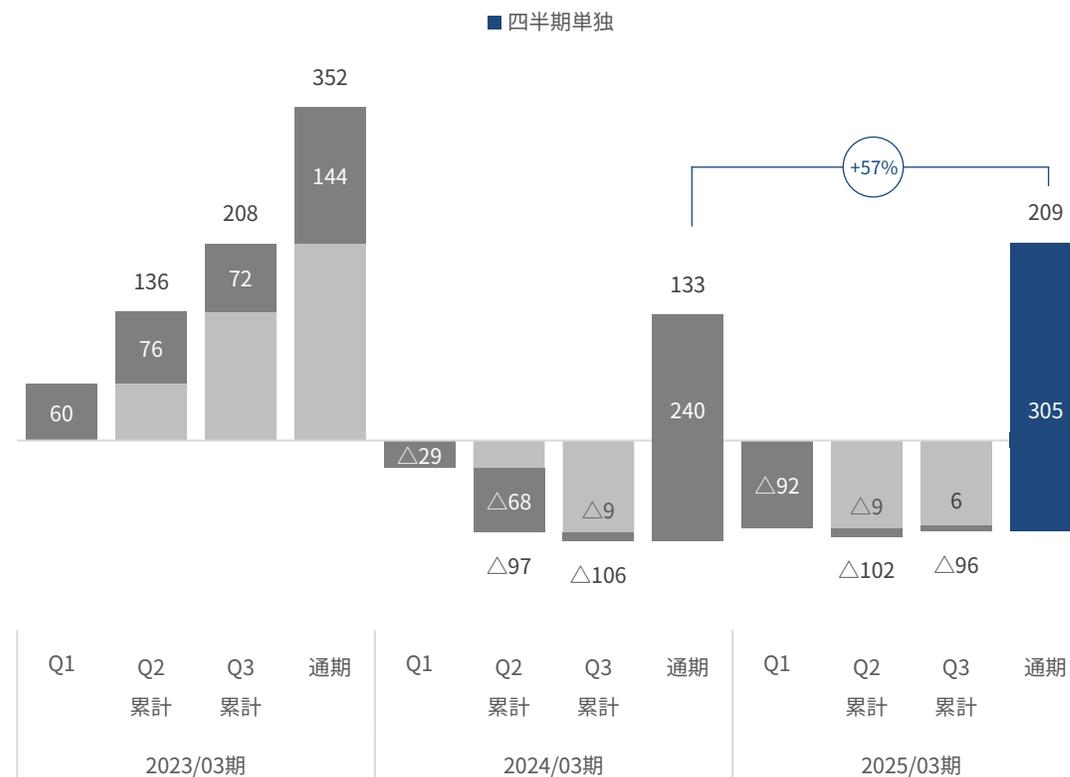
2025/03期 通期 情報機器事業業績

- 計測機器は、データレコーダーが新製品上市もあり好調の一方、センサー及びデジタル指示計が半導体製造装置向け伸びず、減収
- 医用画像記録再生機器は、国内消化器内視鏡向けレコーダーが堅調、手術画像記録用4Kレコーダーも国内と北米で大幅伸長、増収
- 機内エンターテインメント用サーバーは、欧州エアラインへ納入開始し他地域からの引合い増加も大口案件で遅延が発生、減収

情報機器事業 売上収益

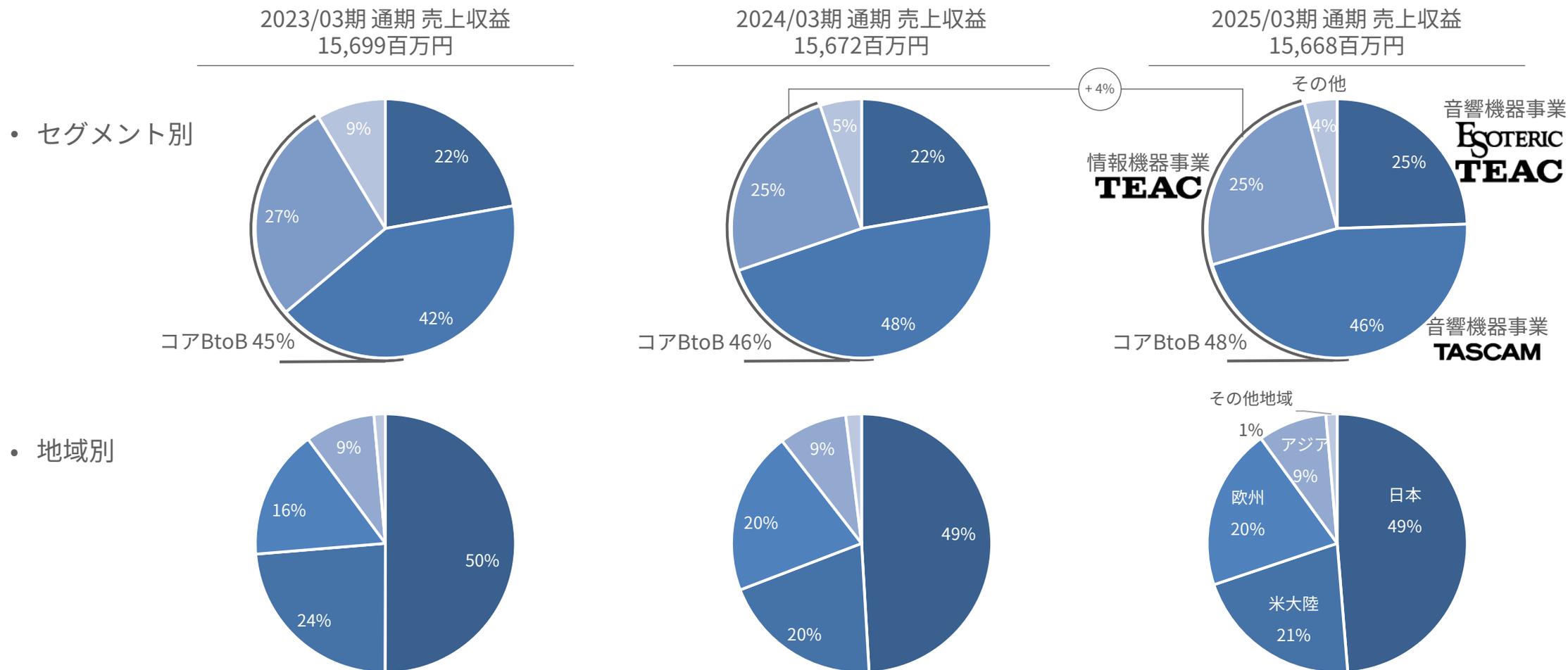


情報機器事業 セグメント利益



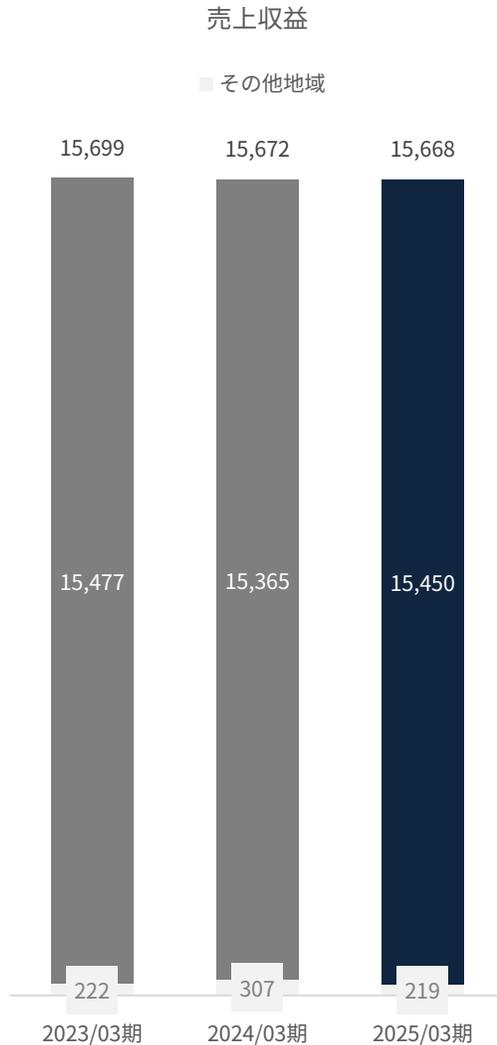
2025/03期 通期 セグメント別・地域別構成比

- BtoB事業は前期比4%増収、構成比は48%と中計目標の「42%」を達成。BtoC事業は好調のプレミアムオーディオの構成比が拡大
- 米大陸・欧州は、音楽制作用オーディオが上半期苦戦もプレミアムオーディオと医用画像記録再生機器の躍進により構成比変わらず

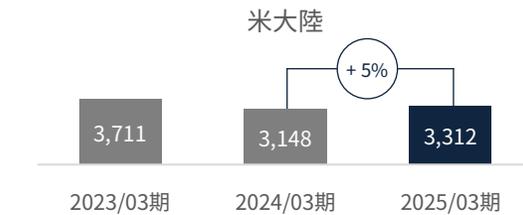


2025/03期 通期 地域別業績

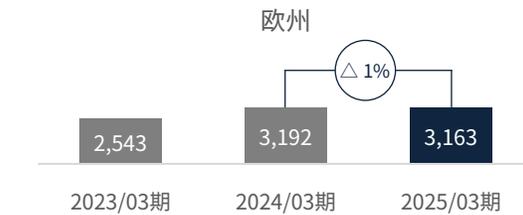
(百万円、+は前期比増収、△は同減収)



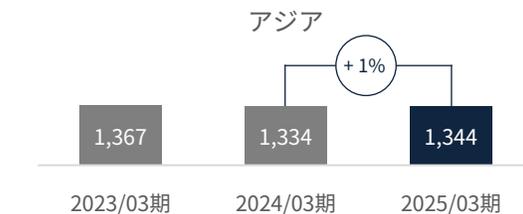
- 音響機器事業
 - + 業務用オーディオ機器 (BtoB)
 - △ プレミアムオーディオ機器、音楽制作用オーディオ機器 (BtoC)
- 情報機器事業
 - + 医用画像記録再生機器、ソリューションビジネス
 - △ 計測機器、機内エンターテインメント機器



- 音響機器事業
 - + プレミアムオーディオ機器、業務用オーディオ機器 (BtoB)
 - △ 音楽制作用オーディオ機器 (BtoC)
- 情報機器事業
 - + 計測機器、医用画像記録再生機器
 - △



- 音響機器事業
 - + プレミアムオーディオ機器
 - △ 音楽制作用オーディオ機器 (BtoC)、業務用オーディオ機器 (BtoB)
- 情報機器事業
 - + 計測機器、医用画像記録再生機器、機内エンターテインメント機器
 - △

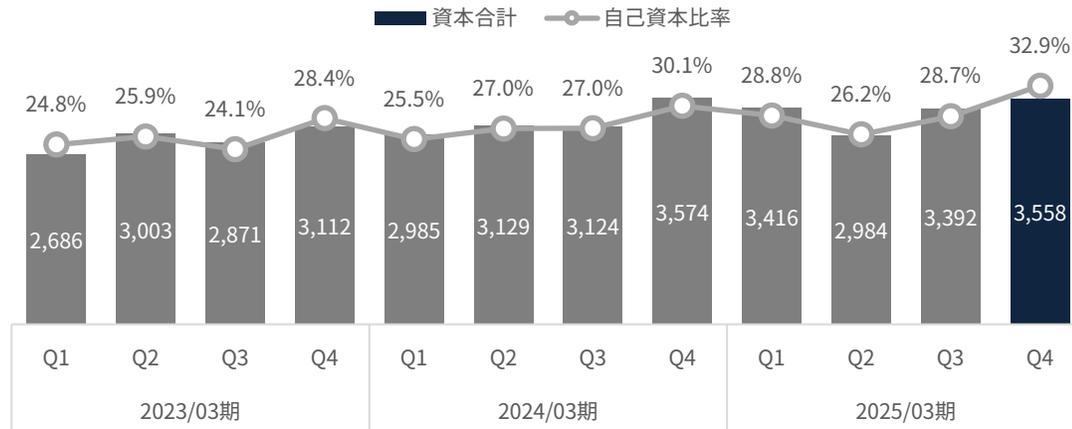


- 音響機器事業
 - + プレミアムオーディオ機器、音楽制作用オーディオ機器 (BtoC)
 - △ 業務用オーディオ機器 (BtoB)
- 情報機器事業
 - + 計測機器、医用画像記録再生機器
 - △

2025/03期 通期 自己資本比率・フリーキャッシュフロー

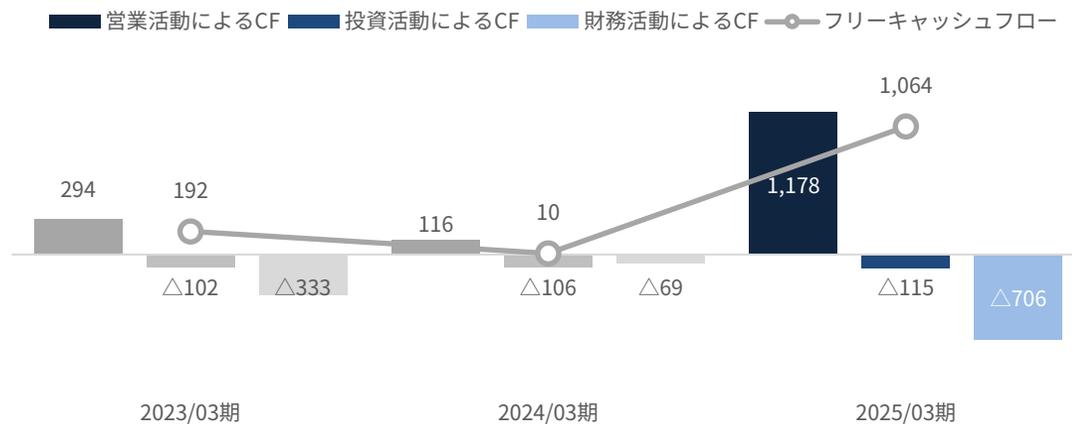
(百万円)

自己資本比率



- 資本合計：前期比△ 16百万円 (△ 0.5%) 減
- 自己資本比率：前期比+ 2.8ppt増

フリーキャッシュフロー



- フリーキャッシュフロー：前期比+ 1,054百万円増の1,064百万円。営業キャッシュフローは前期比+ 1,063百万円増の1,178百万円

■ 2026/03期は、収益悪化リスクを織り込んだ上で前期比増収増益を見込む

	2025/03期	2026/03期 予想	前期比	(百万円)
売上収益	15,668	16,000	+ 332 (+ 2.1%)	<ul style="list-style-type: none"> インフレや金融市場の混乱、地政学的リスク等存在するが、比較優位性を持つ製品の適宜価格改定と併せ、更なる戦略製品の導入と事業領域の拡大により増収を計画
営業利益	340	350	+ 10 (+ 2.9%)	<ul style="list-style-type: none"> 米国における通商政策のマイナス影響は現時点で想定される範囲内で織り込み済み
税引前利益	59	150	+ 91 (+ 152.9%)	<ul style="list-style-type: none"> 増益計画
当期利益（損失）	81	100	+ 19 (+ 23.3%)	<ul style="list-style-type: none"> 増益計画
資本合計	3,558	-	-	
1株当たり親会社 所有者帰属持分	123.51円	-	-	
自己資本比率	32.9%	-	-	
フリー キャッシュフロー	1,064	-	-	

■ 中期経営計画 B-7030計画 財務目標達成状況

- B-7030計画期間内に、業務用オーディオ機器と情報機器から成るBtoB事業はCAGR（年平均成長率）10%で安定成長
- BtoC事業はプレミアムオーディオ・音楽制作オーディオとも中高価格帯へのシフト推進により売上収益CAGRは△5%ながら、全社財務体質は改善
- 自己資本比率、フリーキャッシュフロー、BtoB比率は、何れも最終年度の当初目標を達成
- コア事業の成長計画未達に起因し営業利益及びROEの水準に課題を残した

(百万円)

	2022年3月期 実績	2025年3月期 当初計画 (2022年5月発表)	2025年3月期 修正計画 (2024年5月発表)	2025年3月期 実績	中期計画期間 CAGR実績	
売上収益	16,004	17,500	16,000	15,668	△ 0.7%	BtoB事業と中高価格帯BtoC事業は順調に拡大も、財務体質強化を優先し普及価格帯音響機器の取扱いを縮小、その他事業の減収を補えず
音響機器事業	10,985	13,000	-	11,044	+ 0.2%	新ターゲット領域と定めたカテゴリにおける業務用オーディオ機器と中高価格帯BtoCは着実に成長した一方、普及価格帯機器にて減収
情報機器事業	3,493	4,200	-	3,989	+ 4.5%	医用画像記録再生機器は当初計画を上回り事業拡大。計測機器の需要回復と機内エンターテインメント機器の大口案件に遅延が発生
その他	1,527	300	-	635	△ 25.4%	

22年3月期比

営業利益 (営業利益率)	654 (4.1%)	1,100 (6.3%)	500 (3.1%)	340 (2.2%)	△ 314百万円 (△ 1.9ppt)	当初目標・修正目標ともに未達 売上総利益および売上総利益率は伸長も販促他の投資拡大により減益
ROE	18.2%	17.0%	5.0%	2.3%	△ 15.9ppt	当初目標・修正目標ともに未達
自己資本比率	24.5%	30.0%	30.0%	32.9%	+ 8.4ppt	当初目標である「30.0%」を達成
フリーキャッシュフロー	△ 289	800	800	1,064	+ 1,353百万円	当初目標である「800百万円」を達成
BtoB比率	35.6%	42.0%	42.0%	47.9%	+ 12.4ppt	当初目標である「42.0%」を達成

■ 音響機器事業 プレミアムオーディオ機器

TEAC

- コンパクトステレオパワーアンプの定番として好評を博していたAP-505の後継機種『AP-507』を発売



- 北米にてハイエンドオーディオ市場で最も権威あるアワードの一つ、Stereophile Recommended Componentに、『VRDS-701T』と『UD-701N』がディスクプレーヤー部門とデジタルプロセッサ部門でそれぞれAグレードを受賞



ESOTERIC



- Grandiosoシリーズ初となるネットワーク・オーディオ・トランスポート『Grandioso N1T』を発売

モノラルDAC『Grandioso D1X SE』との組み合わせにより、ESOTERIC最高峰の3シャーシ・ネットワーク・プレーヤーが完成します



- 『Grandioso T1』が、米The Absolute Sound誌のThe 2025 Editors' Choice Awardsを受賞

The Absolute Soundは、専門家のレビュー、業界の洞察、オーディオ愛好家の解説で知られる、世界で最も影響力のあるハイエンドオーディオ出版物の1つです



- 『F-01』と『PS-01F』が、英What Hi-Fi?誌で5スターを獲得

『F-01』と『PS-01F』が音質、造り、機能の3つ全ての項目で満点の5スターを獲得しました

■ 音響機器事業 音楽制作・業務用オーディオ機器

- 『TASCAM Sonicviewシリーズ』 オプションカード『IF-ST2110』 を出荷開始。 SMPTE ST 2110規格準拠により次世代IP伝送システムへの導入が可能に

『TASCAM Sonicviewシリーズ』は、放送局の運用に適した機能を搭載した可搬性の高い小型業務用デジタルミキサーとして、国内・欧州を中心に多くの放送局に導入が進んでおりますが、この度標準規格のSMPTE ST 2110に準拠したオプションカード『IF-ST2110』の出荷を開始しました

放送市場においては、SMPTE ST 2110をベースとした映像・音声のIP伝送化がグローバル規模で始まっており、従来方式からの置き換えによって機材コスト・作業工数削減、リモートプロダクションの実現によるワークフローの改善、コンテンツの共有や放送標準化の促進など多くのメリットが期待されています

本オプションカードの商品化により、『TASCAM Sonicviewシリーズ』は次世代IP伝送システムへの導入が可能となりました



- ロングセラーのTASCAMポータブルレコーダーが音割れしない32ビットフロート録音やUSB Type-Cに対応。『DR-05XP』、『DR-07XP』を新発売

本製品は、好評を博した従来モデル『DR-05X』、『DR-07X』に32ビットフロート録音やUSB Type-Cに対応したオーディオインターフェース、最大512GBのmicroSDXCカード対応などの機能追加を行い、より使いやすく音割れしないレコーディングが可能な次世代機として誕生しました

片手で簡単に操作でき、軽量で持ち運びやすい32ビットフロート録音対応ポータブルレコーダー『DR-05XP』および『DR-07XP』は、ミュージシャン、フィールドレコーディングエンジニア、動画クリエイターからストリーマーまで多くのクリエイターに向けた新たな定番機です



■ 情報機器事業 計測機器

- ・ ワイドバンドデータレコーダー『WX-9000』が国立研究開発法人 宇宙航空研究開発機構JAXA 官民共創推進系開発センターに採用

当社のデータレコーダーは、ロケットエンジンの開発が始まって以来、その計測データの記録に使用されてきましたが、この度、2025年2月に上市した新製品『WX-9000』も採用されました。エンジンの健全性を証明するため、極低温、高圧、高速回転という苛酷な稼働環境下で実施される、時間と費用を要する試験において、広帯域及び多チャンネルの生データをより確実にリアルタイムで記録、再生する目的で使用される予定です



『WX-9000』



©JAXA

財務データシート (IFRS)

		2023/03期				2024/03期				2025/03期						
		Q1	Q2	Q3	Q4	Q1	Q2	Q3	Q4	Q1	Q2	Q3	Q4			
貸借対照表	流動資産	9,042	9,886	9,259	8,351	9,027	8,930	8,969	9,286	9,302	8,914	9,414	8,568			
	現金及び現金同等物	1,353	1,739	1,221	1,196	1,553	1,086	1,369	1,227	1,487	1,347	1,291	1,552			
	営業債権及びその他の債権	2,799	2,871	2,809	2,925	2,671	2,938	2,603	3,517	2,480	2,433	2,903	3,108			
	棚卸資産	4,566	4,998	4,877	3,862	4,512	4,638	4,662	4,214	5,082	4,925	4,957	3,661			
	その他の流動資産	324	278	352	368	291	269	336	328	254	209	263	248			
	非流動資産	1,804	1,720	2,634	2,607	2,673	2,663	2,593	2,585	2,571	2,490	2,416	2,246			
	資産合計	10,845	11,606	11,893	10,958	11,700	11,594	11,562	11,871	11,874	11,404	11,831	10,815			
	流動負債	6,266	6,430	6,161	5,316	6,242	6,018	6,249	5,434	6,051	6,265	6,482	5,557			
	社債及び借入金	2,904	3,030	2,900	2,042	2,749	2,663	2,965	2,110	2,882	2,985	3,300	2,565			
	リース負債	232	164	264	448	519	357	359	367	389	380	386	373			
	営業債務及びその他の債務	1,759	1,798	1,646	1,281	1,615	1,566	1,571	1,504	1,476	1,412	1,311	1,024			
	その他の流動負債	1,371	1,439	1,351	1,544	1,358	1,432	1,354	1,454	1,304	1,488	1,485	1,596			
	非流動負債	1,893	2,172	2,861	2,531	2,474	2,446	2,189	2,862	2,406	2,155	1,957	1,700			
	社債及び借入金	820	1,189	1,113	1,083	977	829	690	1,478	1,142	1,007	926	797			
	リース負債	64	42	870	685	790	913	849	792	710	634	555	477			
	長期未払金	833	793	729	689	622	626	573	511	472	428	386	336			
	その他の非流動負債	177	149	149	75	86	79	78	81	82	86	90	91			
	負債合計	8,160	8,603	9,022	7,847	8,715	8,465	8,439	8,297	8,458	8,421	8,439	7,257			
	資本合計	2,686	3,003	2,871	3,112	2,985	3,129	3,124	3,574	3,416	2,984	3,392	3,558			
	親会社の所有者に帰属する持分合計	2,686	3,003	2,871	3,112	2,985	3,129	3,124	3,574	3,416	2,984	3,392	3,558			
非支配持分	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0				
負債及び資本合計	10,845	11,606	11,893	10,958	11,700	11,594	11,562	11,871	11,874	11,404	11,831	10,815				
親会社所有者帰属持分比率	24.8%	25.9%	24.1%	28.4%	25.5%	27.0%	27.0%	30.1%	28.8%	26.2%	28.7%	32.9%				
損益計算書	売上収益	3,557	4,044	3,879	4,219	15,699	3,349	3,977	3,890	4,457	15,672	3,073	3,662	4,304	4,629	15,668
	音響機器事業	2,262	2,531	2,537	2,693	10,023	2,313	2,974	2,787	2,856	10,930	2,241	2,612	3,211	2,980	11,044
	情報機器事業	907	1,108	1,075	1,238	4,329	815	774	884	1,460	3,933	672	881	1,002	1,433	3,989
	その他	388	405	267	288	1,347	221	229	218	141	809	160	169	90	216	635
	セグメント利益	226	485	345	398	1,453	75	385	384	584	1,427	13	251	455	731	1,450
	音響機器事業	109	265	249	224	846	69	427	387	364	1,247	90	243	469	418	1,219
	情報機器事業	60	76	72	144	352	△ 29	△ 68	△ 9	240	133	△ 92	△ 9	6	305	209
	その他	57	144	24	30	255	35	26	6	△ 20	47	16	17	△ 20	8	21
	個別開示項目前営業利益	△ 20	299	123	162	563	△ 194	148	148	344	445	△ 275	△ 7	198	425	340
	個別開示項目	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
	営業利益	△ 20	299	123	162	563	△ 194	148	148	344	445	△ 275	△ 7	198	425	340
	税引前利益	△ 104	138	182	126	341	△ 389	32	179	183	5	△ 398	37	18	402	59
	親会社の所有者に帰属する当期利益	△ 109	140	150	124	305	△ 400	32	181	134	△ 53	△ 393	49	13	412	81
キャッシュフロー	営業活動によるキャッシュフロー	△ 485	11	△ 204	972	294	△ 113	△ 98	239	88	116	0	104	△ 226	1,300	1,178
	投資活動によるキャッシュフロー	△ 23	△ 38	△ 29	△ 12	△ 102	△ 36	△ 18	△ 17	△ 34	△ 106	△ 54	△ 31	△ 20	△ 9	△ 115
	財務活動によるキャッシュフロー	550	352	△ 242	△ 992	△ 333	446	△ 349	90	△ 256	△ 69	284	△ 134	124	△ 980	△ 706
	フリーキャッシュフロー	△ 508	△ 27	△ 233	960	192	△ 149	△ 116	222	54	10	△ 54	73	△ 247	1,291	1,064

この資料に記載されている記述のうち、将来見通しに関する記述は、当社の現時点での入手可能な情報に基づいている為、既知または未知のリスクおよびその他の不確定要因が内在しており、実際の業績はこれらの業績見通しと大幅に異なる可能性があります。実際の業績に対し影響を与えるリスクや不確実な要素としては、主要市場（日本、北米、欧州、アジアなど）の経済状況・需要動向、同市場における貿易規制等各種規制、ドル、ユーロ等の対円為替相場の大幅な変動、部品・原材料の供給、物流網の安定性、急激な技術変化、などがありますが、業績に影響を与える要素としてはこれらに限るものではありません。